

地域公共交通の 「創り」「守り」「育て」 方入門

～地域を持続可能とするために～

5月15日(金) in 京都
10:00～16:00 ※途中1時間の昼休憩があります。



前半 <講義：机上知識編>

1. 「だれもが気兼ねなくおでかけできる」社会を実現することが目的
2. ライドシェア、AIオンデマンド、MaaS、LRTなどは「道具」に過ぎない
3. 「地域が主体」となって支えることでしか改善できない
4. 利用者だけでなく「地域全体に恩恵を与える」ことが公的資金投入を正当化する

後半 <ディスカッション・発表：現場応用編>

5. 地域公共交通プロデューサーとは何か？
6. 現場の現状を理解する方法
7. 改善策を提案し、その実現のために活動する方法



講師：**加藤博和** (かとう・ひろかず)

【地域公共交通プロデューサー/

名古屋大学大学院環境学研究科附属持続的共発展教育研究センター教授】

1970年岐阜県多治見市生まれ(55歳)。名古屋大学工学部土木工学科卒業、同大学院工学研究科博士後期課程修了(博士(工学))。その後、名古屋大学大学院工学研究科助手、環境学研究科准教授を経て2017年より現職。滋賀大学データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター教授も務める。

脱炭素型交通体系・まちづくり実現のための政策検討をテーマとして研究活動を行う傍ら、地域公共交通プロデューサーとして、自治体・地域住民団体や交通事業者・労働組合等と協力し「現場」での公共交通企画に携わり、公共交通に関するアドバイザーや講演活動も行っている。また、国土交通省の委員を務め、2006年施行の道路運送法改正の方針づくりに参画し、地域公共交通会議の枠組みを提案、その考え方は地域公共交通活性化再生法(地域交通法)に受け継がれた。2013年より交通政策審議会委員を10年間務め、現在は臨時委員として地域交通関連法制度の見直しに関わる。取り組んでいる地域のうち6か所が、過去に国土交通省交通関係優良団体大臣表彰(地域公共交通部門)を受賞。

ウェブサイト：<http://orient.genv.nagoya-u.ac.jp/kato/Jkato.htm> Facebook：<https://www.facebook.com/buskato>

(株)廣瀬行政研究所